

今後の市立図書館再整備の方向性【概要版】

令和6年3月に策定した横浜市図書館ビジョンの具体化に向けて、令和6年第3回市会定例会で報告した「市立図書館の現状と課題」を踏まえ、「今後の市立図書館再整備の方向性」を整理しましたので、報告します。

1 位置づけ

当面10年程度の間、市立図書館全体の再整備等を進めるにあたっての基本的な考え方

2 市立図書館が抱える主な課題

①施設環境

- ・近年整備された図書館と比較して狭く、閲覧席が少ない
- ・施設が古く、インクルーシブ対応やデジタル対応が途上

②提供するサービス向上を担う新機能導入

- ・床面積を最大限活用しており、図書館ビジョンが掲げる賑わい・体験等デジタルも活用した新機能導入は困難

③蔵書

- ・現在の蔵書保有量は、市民一人当たりで比較すると他の政令市より少ない
- ・蔵書保存機能を担う中央図書館の書庫収容量は逼迫

④図書サービスへのアクセス性

- ・図書館及び図書取次拠点の設置密度が低く、図書サービスを身近に感じにくい
- ・各図書館が提供する機能に合わせたアクセス性の確保

⑤物流拠点機能の整備

- ・各館の物流スペースの狭隘化に対する物流の強化
(R4年度の図書サービス拠点(図書館+取次所)間の図書の輸送量はH25比21%増)

3 対応の方向性

(1) ねらい

従来の市立図書館全体の枠組みを再構築し、デジタル技術も活かしながら、提供するサービスの充実とアクセス性向上を目指す

(2) 取組

柱1 市立図書館の再整備・機能拡張

《従来》中央図書館+17地域館による概ね一律のサービス提供

《今後》ア 中央図書館と身近な拠点である地域館で、交通アクセス・バランス等を踏まえ、提供する機能を分担

イ 1区1館を基本としつつ、時代・ニーズの変化と市立図書館が抱える課題を抜本的に解決するため、新たな大型図書館を整備※

※ 中央図書館は、市立図書館全体の司令塔として、コレクションやレファレンス等を充実させつつ、居心地の良い環境づくりを実施

■時間軸を考慮した地域館の老朽化対策

- ・再整備は、建物の老朽状況や周辺エリアのまちづくりの進捗等を踏まえた実施が基本
- ・短期的な対応として、再整備とは別に、居心地の向上を目指したリノベーションを実施

■一部の地域館の中規模化

市域全体の交通アクセス・バランス等を考慮し、一部の地域館が有する機能・規模を拡大

■新たな大型図書館の整備

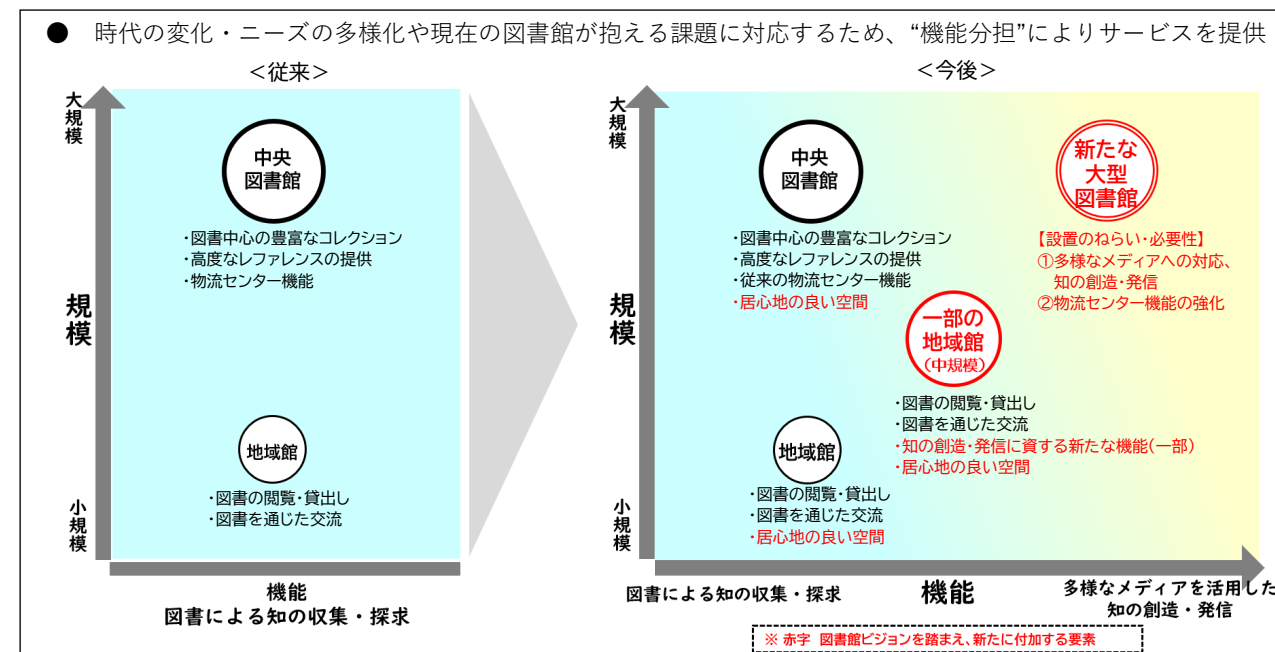
時代・ニーズの変化や市立図書館が抱える課題に早期に対応するため、新たな大型図書館を整備

《設置のねらい・必要性》

- ・図書を含めた多様なメディアへの対応と、知の創造・発信を担う新たな機能・諸室の整備
- ・中央図書館が担う物流機能を強化する、新たな物流拠点の整備

※ R7年度に、新たな大型図書館の立地場所・規模等検討予定

<参考>市立図書館の機能分担による新たなサービス提供体制



柱2 図書サービスへのアクセス性の向上

■図書取次拠点の増設

多くの市民が図書サービスをより身近に感じられるよう、図書取次拠点設置の考え方の柔軟化を検討
《従来の考え方》交通結節点や商業施設での設置を基本とし、サービス空白地域かつ多くの利用が見込める地域にある地区センター等の身近な公共施設においても設置を進める
《今後の考え方》交通結節点や商業施設に加え、地区センターなど市民により身近な施設との連携を市域全体で進め、「図書取次拠点」を設置することを検討

■取次サービスを支える物流拠点整備

図書取次拠点の増設に向けて、市内の各図書館・取次拠点に図書を集荷・配送するための大規模な物流拠点を、新たな大型図書館内に整備

柱3 デジタル技術の積極導入

- ・地域館を含む市立図書館全館に、各館の設備や環境等に応じた、デジタル技術を活用したサービスを順次導入
- ・技術の発展が非常に速いことを踏まえ、「試行」と「改良」を繰り返すアジャイル方式※で導入を進める
※ アジャイル方式 … 状況の変化により素早く対応するため、計画、設計、実装、テストの4つのフェーズを反復的に繰り返しながら開発を進める手法

■デジタル技術を活用した多様な体験の提供

- ・図書館との「接点」を拡大
これまで図書館を利用しなかった方にも興味・関心を持ってもらえる仕掛けの導入
(例) 誰もが気軽に選び借りられる電子書籍の拡充
AIによるおすすめ絵本の紹介 等
- ・図書館の新たな価値の創造
これまでの図書中心のサービスでは実現できなかった、知の「創造」「発信」につながる新しい体験の提供
(例) 五感に訴求する展示
デジタル機器を活用した創造機会の提供 等



AIによるおすすめ絵本の紹介

■より便利で使いやすい図書館の実現

管理運営の効率化と利用者サービスの向上につながる仕組みの導入
(例) ICタグによる蔵書管理、自動貸出し・返却の実施、案内業務へのロボット活用検討 等